

# 農地・水・環境だより (第1回)

平成20年12月1日

いしかわ農地・水・環境協議会

## ■ こども農園「はさかけ」について

### 南加賀支部 【高塚地区自然保全会】

加賀市高塚町地内において、9月に地元住民や清心保育園の園児ら約130人がもち米を収穫しました。

当地区では、子どもたちに農作業を通じて食の大切さを感じてもらうため、昔ながらの農作業を取り組んでおり、5月には枠転がしをした後に園児からお年寄りまで約60人が田植えをし、秋の収穫を待ちっていました。



稲刈り当日は、住民が鎌で刈り込んだ稻を園児らが運び、はさの前には両手いっぱいに稻を抱えた園児の列（写真）ができました。

園児たちは、時折稻株の間から飛び出したアマガエルを追いかけるなど、農作業を通じて出会った生きものにも興味津々の様子でした。12月には収穫したもち米でもちつきを予定しています。

このように、こども達に昔ながらの稻作りを伝える活動を展開することで、活動が実を結びつつあることから、周辺地域の模範として高く評価され、11月5日に豊かなむらづくり北陸農政局長賞を受賞しました。

## ■ 間伐竹材を利用した花壇造りについて

### 奥能登支部 【清真自然を守る会活動組織】

能登町清真地内において、老人会・青年団・婦人会・子供会協力の下、3日間に渡り延べ46人の参加により、用水路沿いに間伐竹材を利用した花壇造りに取組みました。

最初に、農家・老人会・青年団が地域に豊富にある竹材を切り出し、加工し、用水路横に加工した竹材を利用した花壇（写真）を造りました。最後に婦人会・子供会にて花苗の植栽を実施しました。

この取組により、用水路にゴミを捨てる人がいなくなり、また、用水路の大切さを再認識しました。地域の方が通勤・通学等に利用する町道の横ということで、身近に成果が感じられるため、農地・水・環境保全向上活動の主旨が地域に浸透するなどの啓発にも大きく貢献しました。

本活動の成果により、協定区域周辺でボランティアによる遊休農用地にひまわりを植栽する等の活動が拡大しました。



## ■ トミヨの保全活動



石川支部【美川自然環境保護の会】

白山市美川地域では、10集落が一つの活動組織となり、活動に取り組んでいます。

美川地域は古くから地下水の豊富なところでありいたるところに湧水があります。その豊富な湧水という自然条件が残っている事から、絶滅危惧種の「トミヨ」（石川県レッドデーターブック 2000 絶滅危惧 I類）という魚の貴重な生息地となっています。

トミヨの保全活動については、本事業の活動組織だけでなく、美川自然人クラブが大きく活躍しており、本活動を機に今後はその活動範囲を農用地に広め、美川自然人クラブと協力しながら農村環境の向上を目指しています。活動では、湧水の供給元でもある水田まわりの水路において、防草効果があるグランドカバープランツ（写真）により、除草剤の散布をなくしトミヨの生息可能区域を出来るだけ増やそうという活動が行われ除草の省力化に役立てています。

## ■ 廃瓦チップ材による雑草抑制対策について

県央支部 【グリーン・アース河北潟】

河北郡内灘町湖西地内において、廃瓦チップ材を敷設した雑草抑制対策を実施しました。

また、景観対策としてスポットガーデンと愛称看板を併設することにより、画一的で殺風景な干拓地の目印としました。（写真）

整備後の効果として、廃瓦チップ材敷設後は雑草抑制の効果が保たれ、景観形成にも寄与しました。

また、7月下旬から開園する「ひまわり村」と隣接しているため、交流人口の増加と地区固有の風景づくりに貢献しています。



※デザインを担当した石川高専建築学科が第 34 回石川県デザイン展奨励賞を受賞しました。

### 【編集後記】

このたび石川県内の活動組織の様々な活動を紹介する「農地・水・環境だより」を発行することとなりました。皆様の地域の活動をお知らせ頂ければ、今後どんどん紹介していく、よりよい地域ぐるみの共同活動につながればと考えております。

TEL : FAX 076-249-8191

E-mail : [ishikawa@shigenhozen.jp](mailto:ishikawa@shigenhozen.jp)

事務局：中 正樹